

一般社団法人日本新聞販売協会近畿 2026年 各理事の年頭挨拶

真辺讓司理事長（毎日・西明石）



課題に向き合いながら前進

おける重要な情報インフラで

あり、戸別配達は活字文化を

支える基盤もあります。

地域に根差した販売店が

あってこそ成り立つ仕組みで

あり、この体制を将来にわた

り維持していくためには、現

新年あけましておめでとう

ございます。

会員の皆さんにおかれまし

ては、健やかに新春を迎えら

れましたこと、心よりお慶び

申し上げます。

また、平素より日販協近畿

の諸活動に対し、格別のご理

解とご協力を賜っております

ことに、厚く御礼申し上げま

す。

さて、新聞販売業界を取り

巻く環境は、引き続き厳しい

状況にあります。

購読者数の減少という構造

的課題に加え、最低賃金の上

昇や人手不足、エネルギー価

格や諸経費の高止まりなど、

近畿各地の販売現場において

も経営への影響が顕在化して

います。

日々の配達や店舗運営に直

結する課題として、現場から

切実な声が寄せられているの

が実情です。

一方で、新聞は地域社会に

小西康弘副理事長（読売・柏原）



労務の取り組みは優先事項

と労務課題に対する取り組み

は必然的に優先事項となります。

新聞休刊日の増設も最低賃

金への対応も「労務問題」で

ありますが、その根幹は「経

営問題」になります。私たち

は誰もが「世界に冠たる戸別

配達制度」を守るために、昨

年に引き続き粘り強く取り組

んで参ります。

そして熱中症対策が罰則付

きで義務化されました。「真

夏の配達は死亡しても不思議

ではない」時代になった中で

の義務化です。義務化ですか

ら販売店としては対応してい

きますが、従業員の命を守る

ために今年も熱中症予防策

を実施します。従業員の命を守

るために今年も熱中症予防策

辻昭彦専務理事・総務統括（京都・羽拍子）



会員の助力となる事業の実践を

しでも軽減となるようお祈り

を申し上げます。

丙午（ひのえうま）の今年、

「馬」は躍動・成功を象徴し

前向きで活発な一年になると

言われ、特に60年に一度巡っ

てくる「丙午」は情熱や変化

をも象徴することです。

ぜひ、皆さんと日販協で日頃

の努力が報われる年にしたい

ものですね。
さて、アフターコロナに取り組んで4年目ですが、コロナ感染拡大前に比べて多くの会員数も急激に減少しました。自ずと会員収入も減り、会員数も急速に減少しました。仰る通り、かつてのよ

うな裕福な環境が再来する」という意見も少なからず話題に上りました。仰る通り、かつてのよ

岩田達承専務理事（朝日・千里山）



内掲示用のポスターを作成して、会員各店にお届けいたしました。

区域の皆さんに喜ばれる新聞販売をしましょう。」を掲げておられます。これを実践することで、販売の正常化と共に販売の促進につながればと考えております。全

販売店が店内掲示していた

だく事を期待しております。

法規公正担当といたしましては、本年も引き続き「販

売の正常化」に取り組んでまいります。

<p